

2021年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330432095	家庭科教育法 Teaching Method of Domestic Sciencnes	その他		専門	2	選択	3後期

科目の概要

家庭科の学びの対象となる私たちの生活は、多面性をもち多様に変化し、多くの現代的課題を抱えている。その理解に立ち、家庭科教育の意義、小学校家庭科の目標、指導内容、指導方法、学習評価など、小学校家庭科の授業づくりに必要な基礎的理解を目標としている。

学修内容	到達目標
① 学習指導要領や教科書を読み解き、目標、内容、方法について理解する。 ② 教材開発の方法について知る。 ③ 「はじめてみよう ソーイング」で作った作品を例に、自己評価・相互評価・教師評価の仕方を学ぶ。 ④ 自分の生活課題改善のための課題解決学習を実施する。 ⑤ 模擬授業を構想し、実施する。	① 児童の実態を把握して、生活を見つめ、追究し、生活に生かす家庭科教育を行おうとすることができる。 ② 児童や地域の実態に合わせて教材を開発する意義を理解できる。授業の目的に合った教材研究ができる。 ③ 目的に合わせて、小作品を作る。評価観点に沿って、評価できる。 ④ 課題解決学習を行うことにより、自立に向けて自分の生活を見つめ直し、家族を核として学習する意義が理解できる。 ⑤ 指導案を書くことができる。模擬授業を実施することにより、子どものとらえ方、教師の役割（わかりやすい教材・教具、発問、板書等）、評価の仕方がわかり、よりよい授業を行おうとする。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	課題解決に向けて、もの・こと・ひとに関わりながら、自己学修をしようとする。技能習得のために、自ら練習しようとする。
	働きかけ力	
	実行力	
考え抜く力	課題発見力	自分の生活をふり返り、課題設定をすることができる。
	計画力	課題解決に向けて、計画を立てることができる。計画通りに進まない時には、計画を見直しできる。
	創造力	
チームで働く力	発信力	聞き手にわかりやすい仕方（声の大きさ、スピード、具体物を活用する等）やポイントをおさえる確に話すことができる。内容に合った的確な文章や図・表・絵・写真等で表現できる。
	傾聴力	
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻、私語などせず、授業が円滑に行われるようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：小学校家庭科検定教科書「わたしたちの家庭科」開隆堂（令和2年2月10日）小学校学習指導要領（平成29年3月31日）小学校学習指導要領解説家庭編（平成29年7月）

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：教職教科関連科目 資格との関連：小学校教諭一種

学修上の助言	受講生とのルール
・課題等は、早めに提示します。見直しをもって日頃から考えていき、講義の際すぐに取り組み、期日を守って提出しましょう。 ・小学生を教える立場で、生活に関する知識・技能を得られるようにしましょう。教材は身の回りにあふれています。自分の家庭ではどうかと見つめ直し、社会情勢にも目を向け、新聞や文献等に気を配って情報を得るとよいです。	・授業はみんなでつくり上げるものです。積極的に発言や発表をし、ふり返りを書きましょう。 ・携帯電話は、電源を切り、カバンにしまっておくこと。使用する時は指示します。 ・遅刻は15分までとします。 ・欠席した場合、配布資料は隣の人に渡しておくのでもらってください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	20	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育法で学んだこと・どんな家庭科教育をめざしたいか（20点）・・・</li> <li>自分の言葉でこれからの家庭科教育で生かしていきたいことが論理的に書かれているか評価する。</li> </ul>	
				②	✓		
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
レポート			30	①	✓		
				②	✓		
				③			
				④	✓		
				⑤			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		40	①	✓	第11回12回13回14回15回の模擬授業で評価をする。（20点） ・教師役は、発問・教具・板書の明確さで評価する。 ・児童役は、児童の立場に立った発言・グループ活動等ができるか評価する。 ・手縫いの基礎技能（10点）・・・グループワークや教師師範からやり方を理解し、その行為の意味がわかり、身につけることができたか評価する。 ・「○○のための□□」の作品で、学んだ技能を活用し目的に合った創意工夫がなされているか評価する。 （作品の完成度：特に高い10点、高い7点、もう少し工夫したい5点）		
			②	✓			
			③	✓			
			④				
			⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）技能習得や模擬授業のために、自ら練習し準備することができる。 （課題発見力）生活の課題を自分の自立度から発見できる。 （計画力）製作計画表に沿って、期日を守り製作できる。 （発信力）相手意識をもったわかりやすい伝え方ができる。 （規律性）受講態度（遅刻、欠席、学習意欲欠如、課題やその他の提出物の未提出等）が見られる場合は減点する。 当日欠席により課題提出が遅れる場合は事前に提出するとよい。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S：児童の実態に合った教材・教具や発問を工夫して指導案を書き、模擬授業において、児童同士がかかわりをもつ発問ができた。  A：児童の実態に合った教材・教具や発問を工夫して指導案を書き、児童役の学生が楽しかった・わかった・できるようになったとふり返りに書いた模擬授業ができた。	児童の実態に合った教材・教具や発問を工夫して自分なりに指導案を作り、模擬授業を行うことができた。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 小学校家庭科で覚えていること。新学習指導要領の改定ポイントを知る。	自分の考えをもつ、ペア、グループ、全体の学び方で行う。	学んでよかったことを、自分の言葉で発表することができる。教育内容の主な改善事項は家庭科のみでなくすべての教科等で行うことがわかる。	(予習) 小学校家庭科の教科書全体に目を通して、どんな学びをする教科書かつかむ。 (復習) 新学習指導要領解説家庭編P1～P10までを読み、学んだことを確認する。	60	主体性 発信力
2	「家庭科カルタ」から小学校家庭科の学びや学習指導要領の特徴を理解する。 小学校家庭科を学んだ段階での自立度を、大学生の今で自己評価する。	実際に小学生が作りガイダンスに活用しているカルタを使用する。小チェックカードを活用し、課題を発見する。	児童と教師の立場からどんな学びをした家庭科の学習かつかむ。小5から家庭科の学習が始まる理由を理解できる。	(予習) 小5から家庭科の学習が始まる理由を3つ調べてくる。 (復習) 新学習指導要領解説家庭編P72～P74を参考に、自分の生活をふり返り課題を設定し追究方法を決める。	60	課題発見力
3	教科書の記述から、家庭科と各教科との関連を知る。 ユニバーサルデザインを取り入れた家庭科の指導の工夫を知る。	ペア・グループ討議 全体発表 講義	他教科と関連させ学ぶよさをつかむことができる。自分が受けてきた家庭科の授業でユニバーサルデザインを見つめる。	(予習) 各教科との関連と書いてある箇所の教科書に目を通してくる。 (復習) 介護体験や保育園実習先でのユニバーサルデザインを見つめる。	120	発信力
4	生活の課題と実践の計画をグループで話し合い、検討する。 地域と児童の実態に合わせた教材開発の仕方を知る。 ～三河(みかわ)木綿(もめん)を題材にして～	グループ討議 講義	自分の実践計画を見直すことができる。 地域や児童の実態に合わせて教材開発することを理解できる。	(予習) 自分の生活の課題と実践の追究の方向性をグループで発表できるように準備を進める。 (復習) 自分の生活の課題と実践の追究方法をグループでの討議をもとに修正し、家庭実践を始める。	120	主体性 計画力
5	教科書における家族や家庭、衣食住の生活、消費生活・環境と関連させた「防災」の扱いを調べ、なぜこのようにするのか理解する。	講義 グループ討議 全体発表	児童の生活を核にしてどの内容から取り組んでもよく、常に意識して生活できるようにするとよいことがわかる。	(予習) 我が家での地震対策を調べてくる。 (復習) 8週までに生活の課題と実践レポートを3日～1週間は実践し作成する。	180	主体性
6	食の安全～保育園・幼稚園・小学校を関連させて～ 箸の持ち方指導 家庭科指導案の書き方がわかり、学習指導案を作り始める。	講義 討議 実技	食の安全を確保するための様々な取り組みが組織で行われていることを理解する。 正しい箸の持ち方がわかる。 指導案の書き方がわかる。	(予習) 資料「家庭科指導案の書き方」を読み、初めて知ったことわかったこと、真似したいことをレポートにまとめる。 (復習) 箸が正しく持てない場合は、日々練習しマスターする。 (復習) 自分が行う模擬授業の教材研究をし、指導案を書き始める。教具等も作成し11週からの模擬授業に臨む。	240	主体性
7	「はじめてみようソーイング」の基礎技能を身に付ける。	実技	教科書記載の手縫いの基礎ができる。	(予習) 教科書P18～P24を読み、自分ができるようになりたい技能を自覚する。裁縫セット等を準備する。 (復習) 手縫いの基礎をマスターするために練習する。授業中と区別をするために違う色の糸を使用する。	120	主体性
8	生活の課題と実践の発表会を行う。 「はじめてみようソーイング」の基礎技能を身に付ける。 小作品の計画を立てる。	グループ討議 全体発表 実技	友達の実践のよさがわかる。これからの自分の生活改善にも取り入れようとする。 手縫いの基礎技能ができる。誰のために何を作るのかどの技能を使うか計画し、見通しをもつことができる。	(予習) わかりやすく発表ができるように具体物を準備する。 (復習) 手縫いの基礎をマスターするために練習する。授業中と区別をするために違う色の糸を使用する。	180	計画力 発信力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	学んだ技能を使って「〇〇のための□□作り」で小作品を作る。	実技	学んだ技能を活かして、使用目的に合った作品を工夫して作る。	予習) 小作品製作の計画表を完成させてくる。 (復習) 10週に発表できるように作品を完成させ、わかりやすい発表になるように練習をする。	240	主体性
10	完成した作品で評価の仕方を学ぶ。  模擬授業の準備を行う。	児童の立場—自己評価・相互評価  教師の立場—観点別評価	児童の立場の評価では、よさを見つけることができる。 教師の立場の評価では、指導と評価の一体化をめざして観点別に評価していることをつかむ。	(予習) 完成した作品の工夫した点を自己評価する。 (復習) 11～15週に行う模擬授業の配布指導案(ワークシートも含む)を完成させる。 模擬授業の練習(発問・板書構成・教具活用)を行う。	230	主体性 発信力
11	模擬授業① A 家族・家庭	全体発表 カンファレンス	明朗に模擬授業を行う。 よかったこと、アドバイスを話し合える。 指摘をうけた課題についてグループで解決方法を討議する。	(予習) 新学習指導要領の精神にのっとり模擬授業ができるように準備をする。 (復習) カンファレンスで指摘された問題点を克服するためのレポートを作成する。	230	主体性 発信力
12	模擬授業② B 衣食住の生活(衣)	全体発表 カンファレンス	明朗に模擬授業を行う。 よかったこと、アドバイスを話し合える。 指摘をうけた課題についてグループで解決方法を討議する。	(予習) 新学習指導要領の精神に即した模擬授業ができるように準備をする。 (復習) カンファレンスで指摘された問題点を克服するためのレポートを作成する	230	主体性 発信力
13	模擬授業③ B 衣食住の生活(食)	全体発表 カンファレンス	明朗に模擬授業を行う。 よかったこと、アドバイスを話し合える。 指摘をうけた課題についてグループで解決方法を討議する。	(予習) 新学習指導要領の精神に即した模擬授業ができるように準備をする。 (復習) カンファレンスで指摘された問題点を克服するためのレポートを作成する。	230	主体性
14	模擬授業④ B 衣食住の生活(住)	全体発表 カンファレンス	明朗に模擬授業を行う。 よかったこと、アドバイスを話し合える。 指摘をうけた課題についてグループで解決方法を討議する	(予習) 新学習指導要領の精神に即した模擬授業ができるように準備をする。 (復習) カンファレンスで指摘された問題点を克服するためのレポートを作成する。	230	主体性 発信力
15	模擬授業⑤ C 消費生活・環境	全体発表 カンファレンス	明朗に模擬授業を行う。 よかったこと、アドバイスを話し合える。 指摘をうけた課題についてグループで解決方法を討議する。	(予習) 新学習指導要領の精神に即した模擬授業ができるように準備をする。 (復習) カンファレンスで指摘された問題点を克服するためのレポートを作成する。	230	主体性 発信力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力